

HLA日本語学校自己点検・評価

評価の基準：次の5段階で評価する

- 5：達成している 4：ほぼ達成している 3：取り組みを継続する
2：取り組みを検討 1：改善が必要

1. 教育理念・目的等		
評価方法		評価
	全教員が出席する年4回の教師会や研修会（全教員）で徹底、確認を行う。	
①	理念・目的・育成人材像は定められているか。	5
②	学校の特色は何か。	5
③	学校の将来構想を抱いているか。	5
④	理念に基づく教育が行われているか。	5
HLA日本語学校の教育理念、目標、育成の人材像は次のとおりである。 教育理念：現代の国際化時代において、広い視野と実践力のある人材の育成を図り、日本と母国の懸け橋的役割を担う人材を育成し、国際交流親善の発展に寄与する。 目標：“夢や希望をもつ人材を育成する”という理念の下、高い水準の日本語能力を習得することはもちろん、日本での生活と文化を体験し、広い視野を身につけた国際感覚豊かな人材の育成を目指す。 育成人材像： ① 高いコミュニケーション能力と広い視野をもった世界に通用する人材を育成する。 ② 自分で考え、実践する行動力と、相手を理解し、尊重する人間力を養う。 ③ 目標に向かって努力する精神を涵養する。 ④ 日本の高等教育機関で通用する日本語力を養成する。 人口減少という大きな問題を抱えつつも国際社会の中で一定の位置を占めていくことを目標とする日本社会において、日本語日本文化を理解する優秀な人材を育成し、彼らの国との懸け橋になる人材を数多く養成することは必要不可欠な社会事業と考える。このような日本社会のニーズにHLA日本語学校における教育理念・目標および目標とする人物像は合致している。また、これが本校の特色であり、それを堅持し、数多くの本校卒業生を輩出していくことが将来構想である。 その周知徹底においては、校内の各所に教育理念・目標・行動方針を掲げ、職員及び学生がいつも目にすることができるようにしてる。また職員については、朝の朝礼などで唱和するなど徹底して周知に努めている。教職員一同日々研鑽を積み理念に基づく教育を行っている。		

2. 学校運営		
評価方法		評価
	にて、目標達成状況などを確認し、改善が必要な課題については速やかに対処していく。	
①	運営方針は定められているか	5
②	事業計画は定められているか	5
③	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているのか	5
④	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているのか	5
⑤	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
⑥	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
⑦	危機管理体制は整備されているか	5

⑧	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5
学校運営については告示基準及び学校教育法に基づき、学校運営規則を学校規則の外に定め、事業計画に従って運営できるよう、システム化されている。設備も整っている。ただし、教務作業のシステム構築はまだ途上にあり、今後整備していく予定である。運営組織については職務分掌を定め、それに乗っており進めている。意思決定のシステムは効率がよく設定されている。また、危機管理マニュアルを策定し、危機管理体制を整備している。		

3.教職員		
評価方法	定期的な学校運営会議で、教育理念・目的について教職員各自の認識を確認し、定期的な授業見学や研修会を実施し、また半期に1回、全教職員への面談を行い教育の質向上を図り、評価を行う。	評価
①	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	4
②	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4
③	教職員評価を行っているか	3
講師間においては常にコミュニケーションを取り合い、授業内容や、学生が抱える課題などについて常に共有を心がけている。また、互いの授業を見学し、授業改善に努めている。学生に対しては修得すべき知識が明確なカリキュラムを作成し、学習目標を明確に示し、勉学に励むよう声掛けを行っている。教職員には、教材開発などの支援を明確に示し、日振協、入管が行う研修会への参加を義務付けている。 2019年度は立ち上げ年度であったため、取組の成果・効果を、測る指標を明確にして示すことができず、開催できなかった非常勤職員も含めた研修会については今後行っていくこととしている。 教職員評価についてはすでに指標を定めているが、その指標に沿っての評価を今後進めていかなければならない。		

4.教育活動		
評価方法	毎週行う担任会議、全教員が出席する年4回の教師会、年度末の全体会議において、達成状況を確認する。見つかった課題は改善策を話し合い、速やかに実行に移す。	評価
①	カリキュラムは体系的に編成されているか。	5
②	授業評価の実施・評価体制はあるか。	5
③	目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか。	5
④	成績評価は適切に行われているか。	5
⑤	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか。	5
教育課程に沿った学習指導を行っている。定期試験の結果をもとに個別に学習指導を行い、各学生が客観的に自分の日本語力を認識できるようしている。 進路指導においては、各学生の希望に寄り添いできる限り希望が叶うよう助言、支援を行っている。		

5.学生支援		
評価方法	クラス担任が学生本人に定期的なカウンセリング（学習面、生活面）を行い、進路への意思確認や目的意識の指導などを行う。 学生の心身の健康管理や事故、けがへのサポートができるよう24時間対応可能な緊急連絡先（電話、SNS）を入国時オリエンテーションにて学生に周知させる。また留学紹介機関などを通じて、母国の保護者と連携を取りながら、学習の成果などの報告を学期毎に行う。	評価
①	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
②	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
③	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
④	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
⑤	保護者と適切に連携しているか	4
⑥	卒業生への支援対策はあるか	3
学生の学習支援については講師が担当し、生活支援においては事務局に担当者を置いて双方向での支援を行い、個人面談を頻繁に行うなど手厚く進学や生活の助言支援を行っている。地域住民と良好な関係を保つため、頻繁にごみの出し方などの社会良識について頻繁に指導している。 希望する学生は学校が用意している寮に入ることができる。週に1回寮の状況を見守る体制を整えており、課題がある場合が即座に対応できる体制になっている。保護者への情報提供は必要に応じて留学紹介機関などを通じて行っている。 卒業生はまだ出ていない状況である。来年度以降は同窓会組織を設立するなど、サポート体制を確立する予定である。		

6.在留管理と生活指導		
評価方法	入学時のオリエンテーションにて、遵守すべき社会的なルールや基本的生活習慣、学則や学校の規則について日本語、母国語との両方で指導を行っていく。ホームルームの中でも継続的に指導を行っていく。学生情報については、毎月担任が個別データを随時更新し、学校が把握している情報と違いがないか確認する。	評価
①	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
②	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	5
③	我が国の法令を順守させる指導を行っているか	5
④	常に最新の学生情報を把握しているか	5
告示基準に沿って入管の指導に従い適切にが学生募集を行っている。日本社会事情については授業内やホームルーム、また寮の見回りなどの際に周知徹底している。アルバイトの制限などについて法律遵守を徹底させ、また、税金や年金などの仕組み、道路交通法などについては東広島市や東広島警察署の担当者に直接指導を仰いでいる。入管や、日新教の情報などは漏れなくつかんでおり、学生についてのアルバイトや生活の状況などできる限り聞き取るよう努力している。		

7.学生の募集と受け入れ		
評価方法	学校の教育理念や目的を理解し、日本語学習に対して明確な目標を持つ学生でかつ経費支弁能力に問題のない学生を受け入れる方針のもと、現地での募集活動においては、姉妹校や留学紹介機関など信頼のできる機関を厳選し契約した上で、選考は、日本語学習歴、日本語能力検定試験結果、当校独自の日本語試験の実施などの結果を総合的に適正かつ公平に審査した上で、選考を行う。 定員は関連法規等に従って適正な定員設定をした上で、定員を超えないよう在籍者数と入学希望者をリスト化し、定期的に在籍者数の管理を行う。	評価
①	学生の受入方針は定められているか	5
②	学生募集活動は、適正に行われているか	5
③	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
④	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
⑤	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5
告示基準など、関連法規等に従い学則を定め、適正な学習募集行い、適正な定員設定、在籍者数にしている。入学選考は、日本語能力試験実施組織が行った日本語能力試験の結果、および本校が定め判定基準を明記した能力テスト、面接テストを行い決定している。新規校であるため、日本語能力についてのテスト、進学先の情報はまだ提示できないが、今後成果が出れば、正確に伝えるようにする。		

8.財務		
評価方法	方法と時期：全体会議にて策定を行い、取締役会にて承認を受け、適正な会計処理を行い、監事による会計監査を受け、通常総会にて監査報告を行う。	評価
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
③	財務について会計監査が適正に行われているか	5
④	財務情報の公開の体制整備はできているか	4
財務基盤は安定しており、月次単位で予算の管理を行っている。会計処理は税理士事務所に委託し適切な会計を行っている。		

9.法令等の遵守		
評価方法	法令、設置基準等の内容を役員、校長、教職員が把握し、適切な運営にあたる。 個人情報の取り扱いについては、個人情報の保護に努めるよう規程の整備、教職員への取り扱いの研修を実施する。 自己点検・自己評価は定期的の実施し、問題点の改善に努めていく。	評価
①	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
③	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
④	自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
⑤	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5
出入国管理及び難民認定法令及び各種関係法令等を遵守し、疑問がある場合は直接入国管理局に連絡、確認するようにしている。関係省庁への定期報告については遅延なく実施している。個人情報の保護については徹底している。特に文書の破棄などについては、細心の注意を払っている。 情報公開については、本HLA日本語学校教育活動自己点検評価を本校ホームページに掲載する。		

10.社会貢献		
評価方法	社会貢献活動として地域からの信頼を受ける学校づくりを目指していくため、年に数回、地域住民の方との交流を目的とした異文化体験の実施や、学校周辺の清掃などの環境美化活動を行う。	評価
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5
②	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	4
東広島市内で外国人子弟の日本語・教科学習支援のボランティア団体に、図書室及び図書を開放しており、開校時に利用できるようにしている。 行動指針3「地域において」に次のように定め地域の一員としての活動を行うよう奨励している。 ・地域のために必要なことに対して労を厭わない。 ・地域の活動には積極的に参加する。 ・地域に開かれた学校にする。 2019年度は設立初年度であり目立った地域活動はできていないが、今後は積極的に行っていく。		